

令和4年度第2回北海道立函館美術館協議会会議録

- 1 日 時 令和5年2月21日(火) 13:30~15:00
- 2 会 場 北海道立函館美術館 講堂
- 3 出席委員 仲井会長、木村副会長、石岡委員、今村委員、川村委員、熊木委員、桜花委員、佐藤委員、武井委員、梨木委員、吉田委員
(欠席委員：小泉委員)
- 4 傍聴者 報道関係者1名(北海道新聞社)
- 5 議 事

(1) 報告事項

令和4年度事業実施状況について

事務局：資料1に基づき説明。

委員：観覧者数がコロナ前に比べて増えたというが、各特別展の目標値と、それがどの程度達成されたかという数値はあるのか。作品によって集客力が違い一概には言えないだろうが、予想に比べてどうだったのか、道立の他の美術館と比べて函館はどうなのかお聞きしたい。また、今年度は何か新しいことに取り組みられたのか、その結果はどうだったのかお尋ねする。

事務局：特別展ごとの目標値については、評価の関係で数字を出しているのので、確定後にお知らせしたい。また、他の道立館との比較も、後ほど可能な限りでお示したい。集客に関する新しい取組としては、「詩文書の魅力」という書の展覧会において、書の展覧会はなかなか集客が難しく苦勞しているが、なるべく若い年齢層に訴えたいということで、今までは書の展覧会のポスターは渋いものが多かったが、今年度は北海道のイラストレーターで、おぼけのマールやSTVのどさんこ君などのキャラクターを描いている人気のイラストレーターにイラストを依頼した結果、若い来館者が随分増えた。また、これも若い層を意識したものだが、新たな試みとしてユーチューブを使った集客を考え、会場内で書道の団体の方々に書家の思い出などを語ってもらう様子を撮影し、函館のケーブルテレビに編集をお願いし、ケーブルテレビで会期中に放送するとともに、ユーチューブで公開した。また、大人向けの夜間の講座も新しい試みである。美術講座は土日開催がほとんどだが、なるべく普段仕事をしている人たちに、仕事帰りに寄ってもらい楽しんでもらうことができないかと、急遽、会期開始後に企画し、好評を得た。また、ツイッターでは、なるべく多く発信しようと、現在開催中の「道南美術のクロニクル」展では、「担当学芸員のつぶやき」という形で、展覧会の見どころなどをつぶやいている。これには多くの反響があり、どちらかというと道内の方達にという意識があったが、全国から「お気に入り」をしてもらい、神奈川県立近代美術館という日本で一番最初にできた公立美術館の館長や、武蔵野美術大学の教授で大変有名な日本画家の内田あぐりさんがいいねをしてくれた。また、東北地方のリアス・アーク美術館の館長がリツイートしてくれるなど、学芸員の生の言葉の発信が反響を呼んでおり、このよう

な試みは、今後も続けて行きたいと思っている。

委員：引き続き取組を進めていただきたい。私が聞かなくても説明していただければと思う。

委員：私の方からは特に意見はないが、この後、途中退席するため先にお話したい。観覧者数は去年までが底辺と考えれば、これから上に上がるだけだと思うので、皆で前向きに考えて、評価もCのものはB、BのものはAに出来るよう、引き続き関係者が協力して上を目指していければと思う。もし新しいものを考えるのであれば、難しいものではなく、小さいお子さんが喜ぶようなキャラクターの展示会とか、アニメキャラクターの展示会とか、単純に集客という点ではそういうものも考えられればいいかなと思う。

(2) 協議事項

ア 令和4年度道立美術館評価（案）について

事務局：資料2に基づき説明。

副会長：基本的運営方針Dの調査研究評価で、フェイスブック等のSNSでの発信など、学芸員の調査研究の素晴らしい発表があり、大変感銘を受けている。書籍の出版は、一般のISBNを取得してのことと思う。この調査研究は道立の美術館の研究紀要に発表されているのか。評価の中には具体的に書いてないが、学術的な面では、研究成果の共有は非常に重要であるので教えていただきたい。

事務局：ツイッターに発信しているような、道南美術のクロニクルの関係については、紀要の申込締切が夏頃なので、手を挙げられなかった。次年度以降、その成果を何らかの形で出したいと思っている。本来は図録を作るのが一番だが、予算の関係から作ることができない状況である。しかし、せっかくの研究成果が、展覧会だけでは終了後は水物のように流れてしまうので、後の研究者に共有できればと思っており、紀要などに発表していきたい。また、紀要に発表できた段階で、協議会でも報告したい。

会長：紀要は一般にも目にする事ができるのか。

事務局：ホームページでダウンロードできる。道立の近代美術館、三岸好太郎美術館、旭川美術館、当館、帯広美術館、釧路芸術館の6館の学芸員が、展覧会に関わる内容や個人的な研究の状況を発表する冊子が毎年出ており、過去には印刷物であったが、今はホームページからダウンロードできるようになっている。全国の美術館でも同じように発表しており、今後、今回の展覧会について発表していきたい。

イ 令和5年度運営計画（案）について

事務局：資料3に基づき説明。

委員：特別展は、大人は1ついいなと思うと、次は何が来るかとわくわくして何度も足を運んでもらえるが、私の所属する函館市文化団体協議会で高校に教えに行っている先生から、高校生で一度も美術館に行ったことのない生徒がたくさんいると聞いて、一般の人と同じような方が結構いるのではと思っている。令

和5年度は魅力的な事業が多く計画されているので、今まで美術館に来たことがない人を、何とか引っ張って足を向けてもらえるようなやり方、企画を考えていただければと思う。4月29日からの山本二三展も、若い人や学生が興味あると思うので、積極的に広めていただけると有り難い。

委員：山本二三展の関係で、函館市教育委員会も実行委員会に参画しているが、来場者の目標値をどのくらいで掲げていくのかお聞きしたい。また、昨年博物館法が改正され、デジタルアーカイブとか他館との連携とか、いろいろ盛り込まれている部分があるが、来年度の事業でどのように配慮したのか参考までにお聞きしたい。3点目は、7ページ目の(3)のイに函館市交通局との連携と記載されているが、交通局は今企業局になっている。備考に函館バスとの連携とあるので、「公共交通事業者」に改めた方がいいと思う。

事務局：山本二三展の目標値は収支から割り出されているものがあるが、過去の帯広美術館の例で言うと、同じくらいの会期で2万数千人入っているので、限りなく2万人を目指したいと考えている。また、ゴールデンウィーク期間のベストシーズンなので、関連のアニメ作品上映などイベントを予定しており、親子連れなどで2万人くらいは来て欲しい。コロナ禍以降、当館で2万人入った展覧会はないので、それを目指してやっていきたい。また、連携ということでは、学芸員レベルで考えている新しい試みとして、夏のくりかえしのアート展で、障がい者の施設から作品を借用するので、今までにない学校や事業所などと連携して、何が新しいことが出来ればインパクトがあると思っており、新たな来館者の開拓にも繋がると考えている。それ以外にも、学校との連携などを考えている。

委員：ズームが一瞬切れてしまったので、エの創作体験事業のところから、エ、オ、カのところは聞けなかったので、もう一度教えて欲しい。

事務局：再度説明

委員：アートにタッチや関連事業は、やはり新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止ということになるのか。

事務局：館全体の管理もあるが、今のところは消毒の問題もあるので、引き続き休止を予定している。

委員：今、5月になったら新型コロナウイルス感染症が5類になるので、どのような対応になるのか聞きたかった。体験事業など、人が集まりアートに触れる事業が出来ればと思い質問した。

委員：令和4年度に引き続きというか、令和4年度以上にバリエーション豊富な特別展や取組を意欲的にされると感じ、とても楽しみである。特別展もいろいろな年齢層の琴線に触れるようなものに取り組みれるので、きっと足を運ぶことが多いと想像している。個人的には、山本二三展がとっとうれしく思っている。岩合さんもそうだが、琴線に触れる方にはインパクトが強いので、遠くから足を運ぶ方が結構いると思う。ツイッターやフェイスブックを使われているのであれば、思わぬ所から目に触れるということがあるので、きっかけになると思う。くりかえしのアートについては、親子で楽しめる作品で、高校生で美術

館に行ったことがない方も、小学生も幼児も、初めて美術館に来るきっかけになると思う。いろいろなワークショップや取組が実を結ぶとよい。楽しみにしている。

(3) その他 美術館評価の見直しについて

事務局：資料4に基づき説明。

副会長：確認だが、現状の美術館の上の重点項目というものを伺っており、これと今回の評価は全道統一という形で、整合性取がれているんだろうとは思いますが、どのように捉えたらいいのかお知らせいただきたい。重点目標として挙がっているので大丈夫だと思うが、確認させていただきたい。

事務局：全館共通として整合性を取って実施する予定である。

会長：実際に評価してみて問題などが出てくると思う。皆様、協力してご意見いただければと思う。

会長：ほか、全体を通して意見があればお願いします。

副会長：令和5年度の特別展について、各委員から非常に好意的な意見があり、私も素晴らしいなど楽しみにしている。研究という観点から見ると、生誕120年の前田政雄展、くりかえしのアートなど、所蔵品との関連で道南の地域の文化振興が考えられる。また、岩合さんについては、もの凄く集客力があると思う。先々週、千葉市美術館で亜欧堂田善の展覧会を拝見してきた。思った以上に入場者がおり、図録も出ていて研究的にも非常に良かった。その3週前に調布市の図書館で、つげ義春展が開催されており、ほとんど誰も来ないだろうと思って行ったら、200メートルも並ばされ、なかなか見られないということがあった。少しマニアックな内容かと思ったが、特に漫画については、昨年漫画家2人が芸術院会員になり、社会的評価もだいぶ変わっている。動員力があるので、漫画や写真の分野について来年度以降のお考えをお聞きしたい。是非、漫画家、特に地域の、北海道の漫画家で芸術的にも評価の高い、人気の漫画家がいるので、今後このような企画を立てる考えがあればお聞きしたい。

事務局：今、漫画の注目が高く、いろいろな所から展覧会の誘いがある。最近も北海道出身の人気漫画家の展覧会の誘いがあり、当館の予算では到底出来ない高額なギャランティーであったため見送ったが、今後もそういった漫画を企画した展覧会は増えてくると思う。また、美術館としてもより芸術性の高い漫画というものを、美術館ならではの角度から紹介していく展覧会を増やしていきたいと考えている。札幌の近代美術館では富野由悠季の展覧会、釧路美術館でも安野モヨコの展覧会があったり、旭川美術館や札幌芸術の森美術館でも増えてきている。漫画は、クールジャパンと言われひとつの日本が誇るメディアとなってきたこともあるので、当館として良いものがあれば積極的に取り組んで行きたいと思っている。写真についても、函館は写真発祥の地のひとつであり、今回の展覧会でも、ロシアから入ってきた写真術をいち早く学んだ横山松三郎の作品を展示しているが、そういった土地柄を考え、これから写真という点に

も積極的に新しい分野として意識して展示していきたい。

会長： 函館出身の有名な漫画家もいるので、実現出来れば良いと思う。その他の委員から、全体を通してご意見、ご質問をお願いします。

委員： 最初の話で、金子鷗亭のパンフレットの話があった。書はあまり人が入らないということで、イラストレーターを使った新しい感じだと思い、結果的に人も入った。私はチラシがとても重要だと思っている。来年度のくりかえしのアートも、文字だけ見るとわからないが、話を聞くととても楽しそうだった。皆がこうして話しを聞くことはできないので、視覚で訴えることが重要になる。せっかく面白いのに、大して面白くなさそうと思われることがある。お店なども何でもそうだが、まず見た目なので、上手に発信していただきたい。

委員： 本校にも三箇三郎さんの大きな絵があり、何らかの形で児童生徒に紹介したいと感じていたので、うまくチャンスを作っていければと思う。

委員： 前回、初めてこちらに参加してから、今日までの間、展示物や見どころ解説、講演などにお邪魔し、一緒に行った人とも話をし、いろいろ感想を持った。発見として、すごくコアなファンの方がいると思った。その方々は高齢の方や年配の女性の方が多く、函館の美術ファンそれぞれの方が物語を持っていて、話す機会、発信する機会、ミニコミ誌や茶話会などを欲しがっている気がした。一方で、全く美術館に来たことがない方に来てもらうために、新・山本二三展などは本当に集客が見込めると思う。山本二三展で感動して、その後のくりかえしのアート展に来るかどうか、2回目の方が来てくれたら素敵なステップアップになると思う。コアなファンの方への対策、リピーターへの対策、SNSでの発信など、それぞれ対策があれば良い。SNSに関しては、私もユーチューブなどやっているが、有名な物を見たくて来る人、あるいは自分が何か体験したい、アーティスト魂を刺激されて来る人もいるので、屏風やうちわづくりなどの体験出来ることをユーチューブ番組にしてみるのも面白いと思う。函館に住んでいる若い方や高校生に、漫画家になりたいとか、絵を描いてみたいなどというきっかけになる場面があれば素敵だった。

委員： 特別展の話で、アニメとか写真の話があったが、仏像展などは難しいのか。

事務局： 仏像は運ぶのが結構大変である。有名な仏像は道外にあるが、指定文化財などの場合は、それを展示できる施設かどうかということもある。昔、仏像を高野山から旭川まで持ってきたことがあるが、莫大なコストがかかり、いろいろな準備が必要になった。ただ、仏像の展覧会は大変人気で、北海道ではそういった伝統的な物を見る機会が少なく、近代美術館で開催した時は大変喜ばれたので、いつか函館でも開催出来たら素晴らしいことだと思っている。

委員： お年寄りの方は恐らく普段、美術館に来ない方々も来ると思う。なかなか大変だということはわかったが、裾野が広がっていくという意味でも、チャレンジしていただければと思う。